



# 千葉公園やすらぎゾーン（第2期エリア） 地域住民説明会

令和8年2月6日(金) 千葉市緑政課・公園建設課

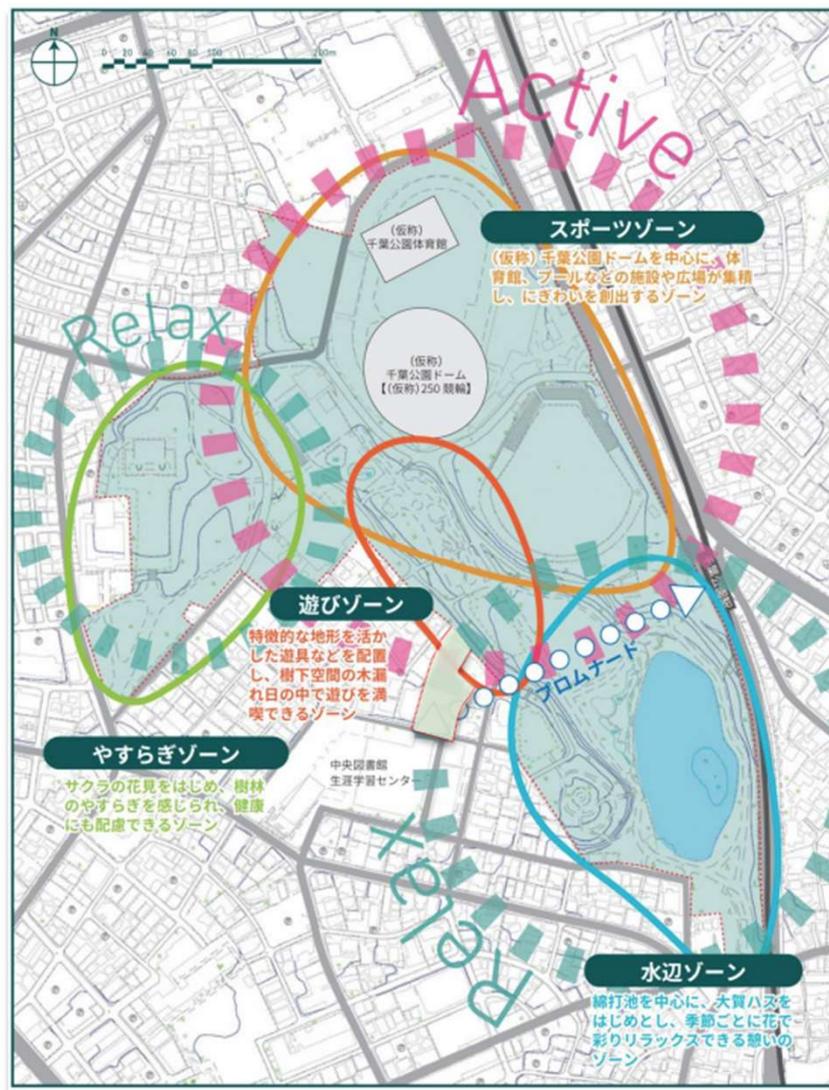


# 説明項目



(1) 千葉公園全体について(マスタープランの再確認).....	P.1
(2) やすらぎゾーンについて	
①現況の課題 .....	P.2
②第2期エリアの設計の考え方 .....	P.3
③動線計画 .....	P.4
④植栽計画 .....	P.5
⑤各エリアの整備イメージ .....	P.6

# (1)千葉公園全体について(マスタープランの再確認)



# (2) ①現況の課題

(課題)

- ・ 樹木の過密化・競合により樹勢が衰退し、落枝・倒木の危険がある



(課題)

- ・ ササの繁茂により景観、風通しが悪化している



(課題)

- ・ 樹勢衰退による花つきの低下の他、倒木・落枝の危険があり安全上の懸念がある
- ・ 広場内に多く残置された切株により、歩行者の転倒、怪我のリスクがある



切株

(課題)

- ・ 道路沿いに列植されたスダジイの過密化・大径化により隣接するサクラの樹勢低下が進んでいる他、見通し・風通しの悪化を招いている

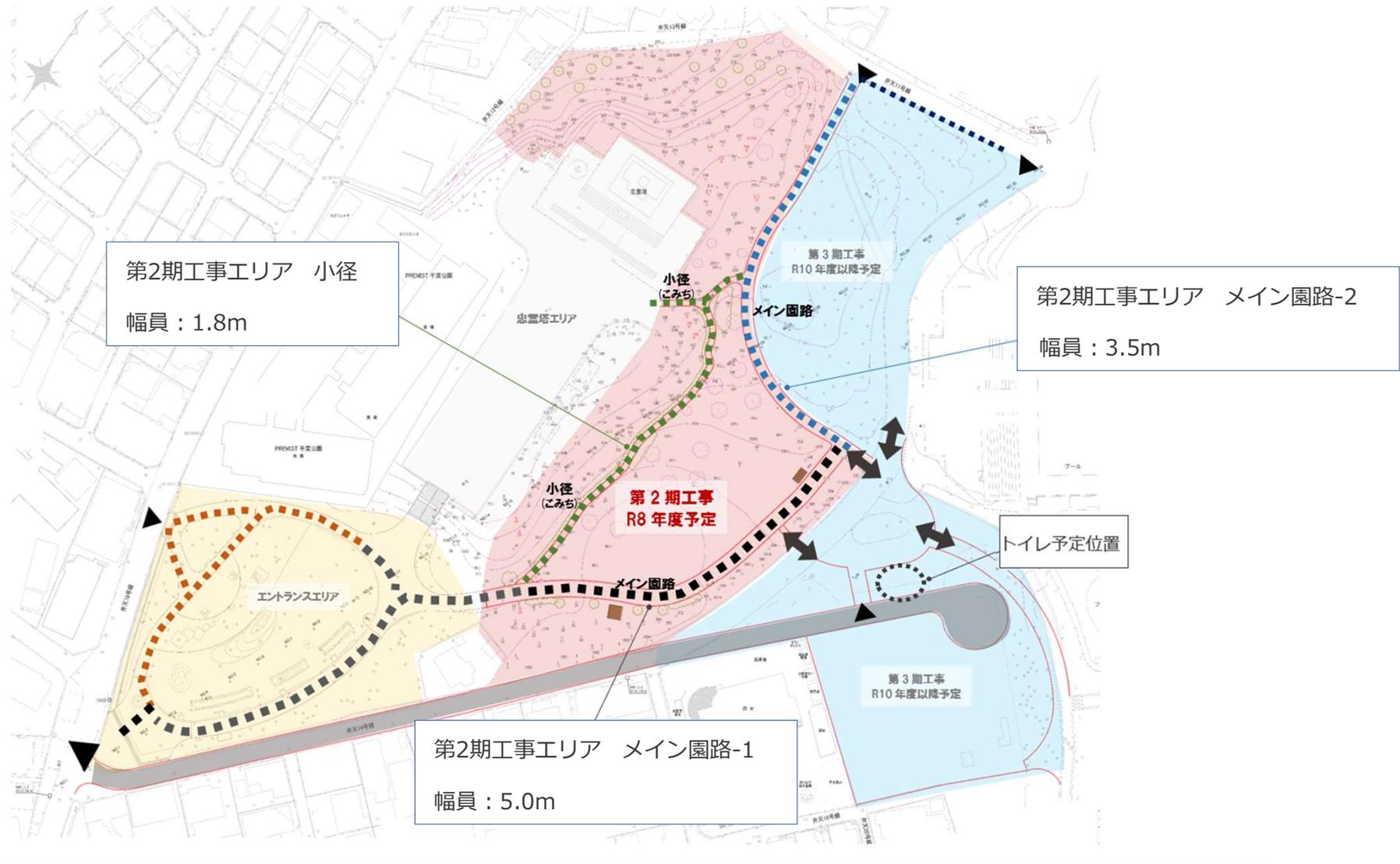



## (2) ②第2期エリアの設計の考え方

— サクラ景観の継承、健全な樹木景観の中で散策を楽しめる憩いの空間 —

- ①サクラの継承、次代へ繋ぐ新規の補植
- ②既存緑地の保全による樹木景観の維持
- ③安全かつ健全な空間とするための適切な樹木更新
- ④散策と軽い運動が楽しめる環境整備

## (2) ③動線計画



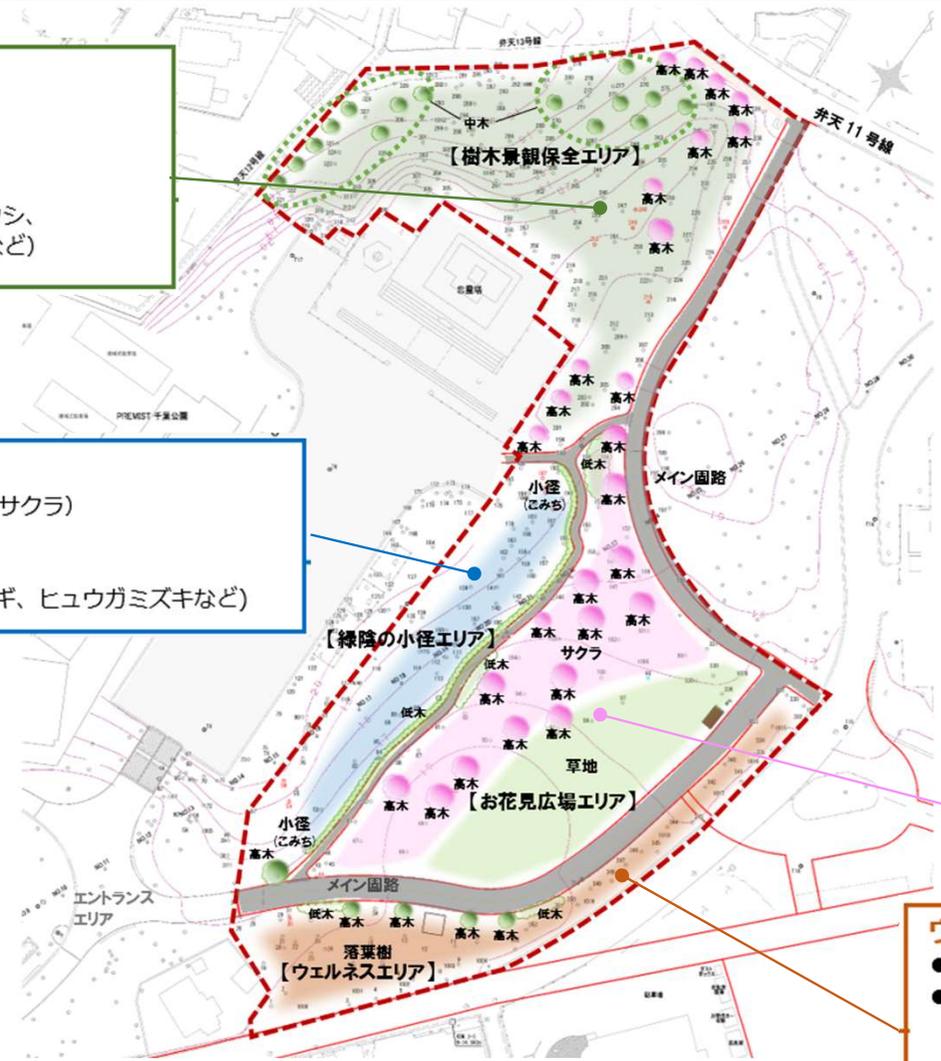
# (2) ④植栽計画

**樹木景観保全エリア**

- 伐採 5本 (クロマツ、サクラ)
- 新植・補植
  - 高木 12本 (サクラなど)
  - 中木 15本 (シャクナゲ、ヤマボウシ、エゴノキ、ソヨゴなど)

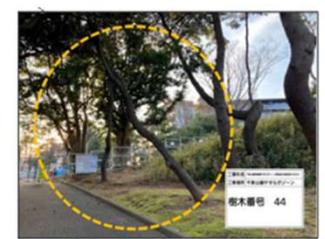
**緑陰の小径エリア**

- 伐採 5本 (クロマツ、スダジイ、サクラ)
- 新植・補植
  - 高木 1本 (アラカシなど)
  - 低木 約 110㎡ (ツツジ、ユキヤナギ、ヒュウガミズキなど)



**【樹木更新の方針】**

- 既存樹木の樹勢調査の結果、以下の項目にあてはまるものを伐採する樹木として選定
  - ① 樹勢が著しく悪く、回復が見込めない樹木
  - ② 落枝・倒木等により事故につながる恐れがある樹木
  - ③ 隣接する樹木と競合し、樹勢衰退を招く樹木
 伐採予定本数 20本
- 次代へつなぐための新植・補植をあわせて実施
 新植・補植予定本数 46本



樹木番号 44 クロマツ



樹木番号 50 サクラ

**お花見広場エリア**

- 伐採 2本 (クロマツ、サクラ)
- 新植・補植
  - 高木 14本 (サクラなど)
  - 低木 約 80㎡ (ツツジ、ユキヤナギ、ヒュウガミズキなど)

**ウェルネスエリア**

- 伐採 8本 (クロマツ、スダジイ)
- 新植・補植
  - 高木 4本 (サルスベリ、イロハモミジ、トウカエデなど)
  - 低木 約 40㎡ (ドウダンツツジ、ニシキギ、ヒイラギナンテンなど)

## (2) ⑤各エリアの整備イメージ

**【樹木景観保全エリア】**  
**自然を身近に感じられる自然共生のエリア**  
 ・概要：今ある樹木景観を大切に、ドングリ拾いや昆虫観察など身近な自然を使った学びができ、未来へつなげる自然環境を育む  
 ・設計内容：既存樹木を活かし、自然を身近に感じられる空間の創出を図る

**【緑陰の小径(こみち)エリア】**  
**街にしながら、森林浴を楽しめるエリア**  
 ・概要：樹木の間を通り抜ける「緑のトンネル」をつくり、街にしながら自然を身近に感じられる森林浴エリアを目指す  
 ・設計内容：アズマネザサの斜面を整え、心地よい風が通り抜ける開放的な風景へと変えていく  
 ・導入施設：グリーンインフラ(側溝)

**【お花見広場エリア】**  
**サクラの継承による明るい憩い・交流のエリア**  
 ・概要：春には満開のサクラの木の下で集えるよう、サクラの名所としての景観の継承を図る  
 ・設計内容：サクラを見渡せる位置に休憩施設を配置する  
 サクラを補植し、総数を増やす  
 ・導入施設：休憩施設



※画像はイメージ



※写真はイメージ

**【ウェルネスエリア】**  
**日常的に散策を楽しみ、体を動かせるウェルネスエリア**  
 ・概要：四季を彩る景観の中での休息と、軽い運動機能を両立させることで、心身ともにリフレッシュできるウェルネス空間の創出を図る  
 ・設計内容：開放感あふれる落葉樹の下に散策、軽い運動ができる空間を創出  
 道路沿いのスダジイの列植については、樹木の健全な育成を促進するため、間引きを含めた適切な管理方法を検討する  
 ・導入施設(イメージ)：ステップ(軽運動可能な段差)